

CAMPUS NOW

早稲田大学広報

No. 255
2025/04

特集
図書館での学び、
叡智との出会い

巻頭インタビュー
芸人(ハリセンボン)
箕輪はるか

HARUKA MINOWA

箕輪はるかさん



「図書館で、知の世界の限らない広がりを感じた」

2003年に結成したお笑いコンビ「ハリセンボン」で、芸人として活躍する箕輪はるかさん。人前に立つことを生業としながらも、実は一人で本を読むことが好きな読書家でもある。そんな箕輪さんは、就職を見据えて、早稲田大学第二文学部在学中に図書館司書の資格を取得していた。

「高校生の頃から地元の図書館に通っていて、その静かな空間がとても心地良かったです。読書が好きでしたし、将来は図書館で働けたらいいと思って、入学後に司書の資格を取ることにしました」

在学中、授業の合間は主に中央図書館や戸山図書館で過ごしていたという。

「図書館では読書や資料探し、司書資格を取得するための授業の復習などをしていました。特にお気に入りの場所は中央図書館地下の研究書庫でした。研究書庫は書架がメインで、壁際

に本を閲覧するための机が並んでいるんです。静かで、『本の場所』という感じがして、座っていると心が落ち着きましたね」

図書館では無数の本が放つエネルギーに圧倒されつつも、そこからパワーをもらっていた、と箕輪さんは振り返る。

「とにかく物量として『本ってたくさんあるんだ』ということを知るのも、思い返せば大事なことでした。各分野の研究者が一生に一冊というくらいの思いで書き上げた本が、読み尽くせないほど存在している。

それを知って『これから先、生きていて絶対に退屈することはない』と思ったんです。知の集合の壮大さに思いを馳せつつ、いつかこの先の人生のどこかで出会うかもしれないまだ見ぬ世界への期待も、図書館で感じていました」

読書を欠かさず、海外旅行でも現地の図書館を訪れるなど、一貫して本と図書館を愛する箕輪さんは現在、雑誌『女性自身』で書評を連載中。その独自の視点と感性が、多くの読者から支持を集めている。

「本を探すときは書店で気になるタイトルを手にとってみたり、自分と本の好み似ていそうな人をインターネットのレビューサイトで探して、その人のおすすめする本を読んできたり。現実と虚構が曖昧に混ざり合う世界観が好きなので、それが書評の雰囲気にも表れているかもしれません」

学生時代に図書館で培った知への敬意と探究心は、芸人であり、一人の読書家でもある箕輪さんを今も支え続けている。

「早稲田大学の図書館には、学生が多くの貴重な資料を気軽に手に取れる環境が整っています。私自身、図書館で深い知の世界に触れた経験が、お笑いだけでなく幅広い活動につながっていると感じます。図書館スタッフに相談すれば資料収集の助言もいただけるので、ぜひ本を起点として、自分の世界を広げてほしいと思います」



PROFILE

1980年東京都生まれ。2003年早稲田大学第二文学部卒業。卒業後、吉本総合芸能学院(NSC)東京校へ入学し、2003年にNSC同期の近藤春菜とお笑いコンビ「ハリセンボン」を結成、翌年デビュー。現在はGATEに所属。ハリセンボンのボケ担当としてテレビやラジオ、CM、舞台などで幅広く活躍中。また、2022年にフジテレビ「IPPON女子グランプリ」で優勝するなど、個人でも活躍の場を広げている。読書や重機、けん玉など多趣味で、けん玉は三段の腕前。



叡智との出会い 図書館での学び、

特集

古今東西の知が集積される、図書館という空間。

早稲田大学図書館は、国内の大学の中でも有数の蔵書数を誇り、デジタル化や他機関との連携、学習スペースの整備など、日々、機能をアップデートしています。

この場所で読書や研究、グループワークに励む学生は、どのように学び、自己を成長させているのでしょうか。

本特集では、学生や教職員の声とともに、進化する図書館の姿をお届けします。



書架に囲まれた閲覧席で 読書やレポート作成に集中

文学部の演劇映像コースで、映画学を専攻しています。学んでいる内容は主に二つ。映画という芸術の性質を探究する映画理論と、映画誕生から現代のハリウッド映画に至る映画史です。映画を分析する上では、映画関連の資料だけでなく、哲学や社会学、精神分析学などほかの領域の知見も生かせるため、さまざまな文献に当たります。

研究で頻繁に利用するのが戸山図書館です。各階にある閲覧席は電源が設置され、パソコン作業も可能。周囲の書架から資料もすぐに手に取れるため、レポート作成がはかどります。一人で集中する際は静かな4階の閲覧席、友人と一緒に学習する際はグループ閲覧室と、ニーズに応じて最適な場所を選びます。勉強する学生が集まる環境は、モチベーションが高まり、レポート提出前などは閉館時間まで作業することもあります。

戸山図書館は人文科学系の資料が多く、国内外の主要な映画理論の文献もそろいます。また映画雑誌を探す際は坪内博士記念演劇博物館、映像資料の鑑賞は中央図書館のAVルームを活用することもあります。専攻を映画学に決めたきっかけは、映画業界で活躍するプロをゲストスピーカーに迎える「マスタース・オブ・シネマ 映画のすべて」という授業でした。学内で十分な映画研究ができる早稲田大学のキャンパスは、私にとって魅力的です。

映画表現の手法は奥深く、作品と文献を往復することで、多くの気づきを得られます。4年生になるとゼミが始まり、本格的に卒業論文に着手する予定です。台湾の映画監督、エドワード・ヤンの作品をテーマにしたいと考えています。

さまざまな学問の文献を読むことで、視野が広がるのを感じています。また、情報や思考の整理に役立つアプリケーションを用いて文献の要点を記録し、最後に文章にまとめていくなど、研究の手法も工夫しています。文献を探り、図書館で作業に没頭するのが好きなので、将来も自分の関心を追究できる道に進みたいです。

文学部3年
瀧下穂崇さん



戸山図書館 閲覧席

文学部、文化構想学部のある戸山キャンパスの戸山図書館は、主に1～4階に学習図書、地下1階に研究図書や雑誌バックナンバーが配架される。蔵書数は約49万冊。各フロアには閲覧席があり、パソコンでの作業が可能。可動式机やホワイトボードが備わる「グループ閲覧室」も設置される。

@戸山図書館



専攻の数学に生かされる 学術情報検索の方法論

大学に入学した時、専攻以外の能力も身に付けたいと考え、図書館司書の資格課程を履修しています。社会に出て大量の情報を扱う際に、図書館のシステムを知っておくと役立つと思い、司書を選びました。司書課程では、図書館のサービスや図書分類法についての科目が用意されており、資料検索、蔵書の分類、目録の作成、レファレンスカウンターでの対応方法など、幅広く実践的な手法を学べます。

一方、基幹理工学部では数学を専攻しており、自習時間に理工学図書館や理工学生読書室を利用します。豊富な専門書から自分に合ったものを選ぶことができ、試験対策の際に有効です。また、4年生から所属する研究室を選択する上で、それぞれの研究室で使われる専門書を比べる際にも活用しています。

数学関連の資料を探す時は、オンラインの検索システムも便利です。早稲田大学図書館の統合検索システム「WINE」では、学内図書館の所蔵情報だけでなく、オンラインで閲覧できる資料も探せます。数学用語の和英辞典などをパソコンで使うことで、自宅での学習の幅が広がります。

資料探しのノウハウは、司書課程の課題で身に付けられました。「情報サービス演習」という科目は、インターネット上に公開されている情報資源の活用方法を学べます。国立国会図書館の「NDLサーチ」、タイプ別、テーマ別に資料探索法がまとめられた早稲田大学の「リサーチNAVI」、早稲田大学が契約する事典や辞書のデータベース「ジャパンナレッジLib」など、さまざまなシステムにアクセスできることを知り、学習はもちろん、サークル活動の調べ物など、さまざまなシーンで活用しています。司書課程を通して公共図書館における生涯学習のあり方に関心をもったので、今後も図書館のさまざまな活用を試してみたいと思っています。

基幹理工学部3年
野坂寧音さん



理工学図書館 開架書庫

西早稲田キャンパスの理工学図書館は、理工学系の専門資料を中心とする研究図書館。電子ジャーナル、オンラインデータベースを中心に専門学術雑誌、洋書、参考図書、規格資料、会議録など、約33万冊を所蔵するほか、「グループワークルーム」なども設置される。また別館にある理工学生読書室は、日本語図書を中心に約8万冊を収蔵する。

@理工学図書館



プレゼンテーション・エリアで行われる 活発なグループワーク

2年生の時にアメリカへ1年間留学し、多様なバックグラウンドをもつ人々との出会いを通じて、自分の中にある先入観や思い込みを実感しました。そうした偏見を払拭する教育手法に関心を抱き、3年生からは教育システム開発論がテーマの研究室に所属。教育を「人間の主体的な学び・成長を促すシステム」として捉え、関連する課題をグローバルな視点から研究するという教育システム開発論の方針の下、私は異なる文化・言語におけるコミュニケーション方法を学んでいます。

ゼミには約10名の学生が所属し、週に1度、プレゼンテーションやディスカッションを行います。内容は、指定の文献をまとめるレポート発表のほか、卒業論文の構想や文献のレビューなど、さまざまです。近隣の小学校でフィールドワークを行い、得られた知見を共有することもあります。ゼミで使用するのが、所沢図書館のラーニング・コモンズ内にある「プレゼンテーション・エリア」です。巨大なホワイトボードやプロジェクターなど、グループワークに適した設備が揃っています。図書館とはガラス張りの壁で隣接しており、発言しやすい開放的な雰囲気もこの空間の魅力です。

グループ発表の前には、フレキシブルに机を動かして共同作業もできる「グループ学習エリア」でリハーサルをしたり、「個人学習エリア」で資料作成をしたりと、ラーニング・コモンズの各エリアを活用します。図書館と併設されているため、必要な資料はすぐに関覧できますし、他キャンパスにしかない場合も取り寄せられます。

グループワークを通じ、他者の意見を取り入れることで、限られていた自分の視野を広げられます。また第三者視点のフィードバックを、再び論文作成やフィールドワークの手法に落とし込むことで、研究の方向性もより明確になります。4年生で取り組む卒業論文では、学習支援のワークショップを設計し、効果を測定しようと考えています。教育を通じた多文化の共生に、今後も挑戦したいです。

人間科学部3年
佐伯 栞さん



所沢図書館 ラーニング・コモンズ

学内の図書館やキャンパス内に設置される「ラーニング・コモンズ」は、問題発見・解決型教育を実現する空間。所沢図書館のラーニング・コモンズには、「プレゼンテーション・エリア」や「グループ学習エリア」のほか、インターネット端末やAV視聴機器が配置される「個人学習エリア」、くつろぎながら資料を閲覧できる「リラックス・エリア」などがあり、用途に合わせて自由に利用できる。



@ 所沢図書館





教育学部3年
上原早耶香さん

図書館統合検索システム「WINE」

早稲田大学図書館が提供する「WINE」は、インターネット上で学術資料の所蔵情報や入手方法を調べられる統合検索システム。大学が契約している電子ジャーナル、電子ブックを検索することもできる。電子ジャーナルでは、学術論文の書誌的事項や引用文献リストを包括的に検索できる「Web of Science」などのデータベースが利用可能。

論文検索データベースから膨大な学術資料にアプローチ

教育学部理学科の地球科学専修で進化古生物学研究室に所属しています。地質調査や化石調査、地層から抜き取った試料であるボーリングコアの分析など、さまざまな手法で生態系の進化や地球環境の変動を明かしていくことが、ゼミの目的です。その中で私は、白亜紀を中心とした地層中の堆積物を分析し、そこに含まれる微化石の年代変遷と環境変動の関係にアプローチしています。

研究でよく活用するのが、電子化された学術誌の記事をインターネット上で読むことができる電子ジャーナルです。ゼミでは指定された電子ジャーナルを用いて、論文やグラフの作成、英語テキストの輪読などを行います。個人で論文を探す際には、多彩な論文を横断

検索できる国立情報学研究所の「CiNii Research」などを使うことで、研究内容に関連するワードから、探している学術情報にたどり着くことができます。私は、研究対象とする地層帯について、先行研究の結果を集める際に使用することが多く、パソコンで作業が完結できるのも便利です。英語論文の講読は困難に感じることもありますが、時には翻訳ツールも取り入れつつ、参考書を片手に専門用語を調べながら、国内外の幅広い研究成果に積極的にアクセスしています。ゼミの課題では学生が資料を収集するプロセスも重視しており、自力で考えながら情報を探す能力を高めていきたいです。

私は博物館や学校の授業がきっかけで、幼い頃から地球史が好きでした。研究で得たスキルや知識を生かし、将来はその面白さを伝えられる仕事をしたいと考えています。



商学部2年
田村真輝さん

商学部学生読書室委員会で蔵書の選書作業を担当

商学部の学生読書室には、学生が施設を自主運営する「商学部学生読書室委員会」があり、私は副幹事を務めています。本がある空間が好きで、授業の合間などを有効活用できるため、委員会に参加しました。

委員会では主に、利用された図書の返本作業、寄贈図書の受け入れ、リクエストの受け入れなどを担当しています。蔵書を学生が直接リクエストできるのは学生読書室の特徴であり、カウンターに集まったリクエスト用紙の中から、委員会のメンバーが内容や予算を考慮し、購入する図書を選びます。リクエストされる本は、経営やビジネスだけでなく、一般教養や統計、数学関連など幅広いです。選書に当たっては、蔵書に適しているか見極



商学部・国際教養学部学生読書室（頂新国際グループ記念学生読書室）

早稲田大学の一部の学部には、学生読書室が設置され、専門領域に関連した参考図書や一般図書を講読できる。商学部と国際教養学部の学生読書室である「頂新国際グループ記念学生読書室」は、約6万9千冊を所蔵。経営やマーケティングの専門書のほか、新聞や雑誌、ビジネス書も揃い、社会のトレンドを掴むことができる。

められるよう、友人に意見を聞いたり、ECサイトのランキングや書店の店頭をチェックしたりと、日頃から情報収集に努めています。

私自身、普段から学生読書室を利用します。教室と同じ11号館にあるので移動がしやすく、席が空いていることも多いため、短時間で集中して作業する際に最適です。また、ゆったりと読書したい時は国際文学館(村上春樹ライブラリー)、グループで話し合う時はリサーチイノベーションセンター(121号館)のオープンスペースを利用するなど、用途に応じて場所を使い分けています。

委員会の活動を通じ、自分の知らない分野の本と数多く出会うことができました。情報収集はインターネットが便利ですが、思わぬ発見に満ちていることが、本の魅力だと思います。



大学院教育学研究科1年
笠原 碧さん

中央図書館のLAとして勤務し
学部生の学びをサポートする

中央図書館、理工学生読書室、所沢図書館には、大学院生が学部生の相談を受け付けるLA(ラーニング・アシスタント)デスクが設置されています。私は中央図書館のLAとして勤務し、学習支援や図書館の利用案内に当たっています。

LAへの相談内容は原則自由ですが、レポート執筆の相談が多いです。参考文献の探し方、資料の読解方法に悩む学生に対し、マンツーマンの指導で解決に導きます。また、専門図書が所蔵される地下の研究書庫の活用法、コピー機の使い方など、図書館の基本的な利用方法の相談も受け付けています。中央図書館のLAデスクは、ラーニング・commonsに近接しているため、学習中に気軽に相談できることが特徴です。LAデスクは8名の大学院生がローテーションで勤務しているため、それぞれの専門領域に合ったアドバイスも受けられます。

私自身は教育学が専門で、生涯学習や社会人教育を研究しています。学びがキャリアに与える影響にアプローチしていたことから、図書館という環境にも関心を抱きました。また、私は学部時代がコロナ禍と重なり、身近に相談できる先輩が限られていました。“気軽に話せる先輩”として活用してほしいという思いが強く、相談者の不安げな表情が晴れる瞬間に、やりがいを感じます。学問の基礎的な方法論を身に付けた大学院生ならではの等身大視点でのサポートによって、今後も学生の学びを最大化できるよう、LAとして貢献していきたいです。

後輩たちの学びに役立てたい

Learning Assistants



図書館利用者支援課員
蓮沼 明子

図書館利用者の悩みを解消する
レファレンスカウンター

図書館利用者支援課員として主に利用者向けサービスを提供しています。窓口およびオンラインでのレファレンス相談受付、LAのサポート、イベントや講習会の実施など、業務内容は多岐にわたります。

レファレンスカウンターでは、レポート作成や学習・研究に必要な資料の検索方法や資料の紹介などを行い、その後の学びにつながるようなコミュニケーションを心がけています。質問内容は基礎的なものから研究レベルのものまで幅広く、ケースによっては私たちが時間をかけて調査を行った後に回答することもあります。

授業開始時期の新入生歓迎イベント「ライブラリー・ウィーク」では、図書の展示をはじめ毎回趣向を凝らしたさまざまな企画を通じて学生が図書館の魅力に触れる機会を提供しています。この時期は図書館の利用方法を楽しく学べる「セルフツアー」にも多くの学生が参加しています。定期的にワークショップも開催し、図書や学術雑誌、新聞記事の活用方法、就職活動に役立つ資料の探し方、電子資料やツールの使い方などを案内しています。対面での活動のほか、時間や場所を問わず学習できるWaseda Moodle上での図書館動画コンテンツも充実させています。

長い歴史とともに蓄えられた蔵書と多彩な機能を備える早稲田大学の図書館では、手厚い利用案内が欠かせません。学生が図書館を使いこなし、成長できるよう、多角的なサポートを提供していきたいと考えています。

学生が図書館を使いこなせるよう
活用のノウハウを共有する

Reference Services

学術情報資源の拠点として 新たな時代の教育と研究を支援する

早稲田大学図書館は、学習環境の充実や情報資源の集約を通じ、教育・研究機能の向上を目指しています。
亀山渉図書館長が、近年の取り組みと成果について説明します。

歴史の中で機能を拡充させてきた 早稲田大学の図書館

早稲田大学における図書館の原形は、1882年の大学(東京専門学校)創立時に設置された「図書室」です。以来、約140年に及ぶ長い歴史の中で、施設を拡充してきました。現在は中央図書館、キャンパス図書館(高田早苗記念研究図書館、戸山図書館、理工学図書館、所沢図書館)、学生読書室、教員図書室、坪内博士記念演劇博物館図書室、国際文学館研究書庫など、20を超える図書館・図書室を備えています。

早稲田大学図書館は、本学における教育、研究、社会貢献活動を支援すべく、三つの使命を掲げています。
①国内外の学術情報資源を収集管理し、本学の学生および教職員の利用に供する②本学の学術活動成果の公開と発信を支援する③国内外の研究図書館と連携し、世界の学術情報発展に寄与する——です。学術情報資源となる図書を収集・保存することはもちろん、学生の学びをサポートし、世界の教育・研究にも貢献することが、私たちの役割です。

デジタル化時代の学びのために データベース連携を推進

教育においては、学生の主体的な学びを実現する「アクティブライブラリ構想」の下で、発話やグループ利用が可能な「ラーニング・コモンズ」を図書館内に設置してきました。また、LA(ラーニング・アシスタント)やレファレンスカウンターが資料収集や論文執筆をサポートするなど、図書館全体を機能的な学習空間として整備しています。

一方、デジタル化が進む現代においては、オンラインリソースの活用も欠かせません。早稲田大学では

1980年代より学術情報システム「WINE」の整備を始めており、現在は学術情報の統合検索システムとして機能しています。2019年からは、慶應義塾大学との連携により、日本で初となる図書館システムの共同運用を開始。電子目録情報の標準化などに取り組み、両大学が所蔵する資料の横断検索が可能になりました。2024年には学生証による両大学図書館への入館が可能になり、大学院生ならば相手校の資料を取り寄せ、自校で貸出手続きができるようになりました。

また近年の学術界では研究成果を誰でも自由に閲覧できる「オープンアクセス」の重要性も高まり、本学も国内外のさまざまなデータベースと連携を進めています。情報の電子化は研究者間のみならず、教育にも有効です。引き続きデジタル化推進、情報リテラシー教育にも注力していきたいと考えています。

世界の学術情報発展に寄与し 教育・研究の質を向上させる

図書館機能の中核である蔵書の収集にも力を入れており、2023年度末の総蔵書数は580万冊を上回りました。国内私立大学ではトップの水準であり、寄贈をはじめとする関係者の協力、歴史の蓄積の成果といえるでしょう。なかには日本文学を中心とした貴重書も多く、海外の研究者の利用も増えています。学術機関としての国際的なプレゼンス向上は、次世代の人材育成にもプラスの影響をもたらすはずです。

中央図書館の入口には、「QUAE SIT SAPIENTIA DISCE LEGENDO(知恵の何たるかを読むことによって学べ)」という、古代ローマの将軍・カトーが残した言葉が記されています。今後も知恵の宝庫である図書館を、多くの方々に活用していただけるよう、機能のアップデートに努めてまいります。

早稲田大学図書館の 実績と利用状況

- ▶ 総蔵書数
5,869,610冊
- ▶ 年間の総貸出数
347,386冊
- ▶ 年間利用者数
1,331,793人
- ▶ 利用可能な電子ジャーナル
189,014タイトル
- ▶ 利用可能な電子ブック
779,717タイトル
- ▶ 世界各国の雑誌数・新聞数
55,590タイトル
(2023年度)

早稲田大学図書館館長
亀山 渉(理工学術院教授)

書籍だけでなく、絵巻や掛幅などの画像資料も多く所蔵されている早稲田大学の図書館。
日本の仏教絵画史をテーマに研究されている山本聡美先生に、
美術史研究における図書館の活用方法や、人文科学のもつ可能性について伺いました。

美術作品に残された痕跡から 人間の営みをとらえる



文学学術院
教授
山本聡美

早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得満期退学、博士(文学)。大分県立芸術文化短期大学講師、金城学院大学准教授、共立女子大学教授などを経て、2019年より現職。著書『九相図をよむ朽ちていく死体の美術史』(KADOKAWA, 2015年)で、平成27年芸術選奨文部科学大臣新人賞、第14回角川財団学芸賞を受賞。

仏教絵画に死生観を読み解き 現代を生きる人間の生活を想う

日本の古代・中世絵画を中心とした美術史が専門で、「九相図」という死体が腐敗し白骨となるまでの様子を9つの相で表す主題を起点に、仏教絵画史を研究しています。日本では九相図が鎌倉時代から20世紀初頭ごろまで連綿と描き継がれ、多くの作品が生まれました。なぜそれほどまでに世の中に必要とされたのか、この絵を見ていた当時の人々の精神は現在とどう違うのか、といった視点から、人間の営みとしての思想、宗教、文化、美術について考えています。

近年取り組んでいるのが「廃墟」と「捨身」というテーマです。廃墟のイメージには、過去の繁栄と未来への復興という二つの側面があります。この概念には、現代社会においても自然災害や、戦争によって生じる都市や社会の荒廃と、どう向き合っていくかを考えるヒントがあると感じています。

また、捨身とは他者のために我が身を捨てることで、お釈迦様の前世の物語に多く見られます。そして長い年月の中で、さまざまな人物のエピソードと組み合わせられ、多様な物語や美術に姿を変えてきました。九相図もその一部です。人々にとってそれらの美術作品がどのような存在だったかを考え、人間の生きた痕跡をたどっていけるのが、美術史の面白いところです。

図書館で一次資料に触れることは 研究の第一歩となる

美術史の研究にとって、美術作品は最も大事な一次資料。作品を実際に観察しないことには何も始まりません。学生たちには、とにかく足を運び作品を見に行くように伝えています。展覧会で実物を見ることはもちろん、寺社や個人で所蔵している作品を見せもらう調査もあります。ただし学生にとって学外で後者を経験するのはハードルが高いものです。

早稲田大学の図書館には、研究に未着手のものもあるほど多くの貴重書や美術作品が収蔵されています。在学生はそれらに簡便な手続きでアクセスすることが

できるので、一次資料から学ぶ良い経験になるはずです。研究者を志すのであれば、掛幅や巻子を正しく扱えるかは、所蔵者からの信頼に直結する必須のスキルですから、取り扱いに慣れるという点でも貴重な機会となります。

また、図書館は調査先で美術品を観察する前の準備にも欠かせない存在です。所蔵されているレプリカや、デジタルアーカイブ化された情報を活用して、入念に事前調査を行うからこそ、実物を見たときに新たな発見ができるもの。素材は紙なのか絹なのか、絹の場合は表と裏の両面から絵の具を重ねることがあるため、どんな順番で塗り重ねられているのか、現状どこが剥落して、どの層が残っているのかなど、その場で注意深く観察しなければいけないことは山ほどあります。調査現場で最大限の結果を得るためにも、基本的な情報を事前に把握しておく必要があるのです。

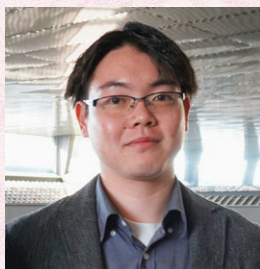
ただし、学生がインターネット上の情報だけでレポートを作成するのは、あまりおすすめしていません。非効率的だとしても、学生のうちに、物質としての美術品や本にたくさん触れることが、自分の興味に出会うための第一歩だと考えているからです。学生の皆さんには、情報の形や種類に合わせて、適切な活用方法を選択できるようになってほしいと思います。

長期的な視点を社会に提供する 人文科学の可能性を伝えていく

美術史を含め、人文科学とは歴史や文化、宗教、思想からの視座を提供することで、社会に貢献していくことができる学問だと考えています。100年、1000年といった大きなスパンで人間を考えること。これは人文科学が得意とする方法であり、社会に不可欠な視点です。図書館は、そんな学問の先人たちの叡智や、過去の人間の営みについてのヒントが詰まっている場所だと言えるでしょう。

今後は人文科学の面白さを学生たち、ひいては社会に広く伝えていき、これから育っていく次世代の研究者たちとともに、世界と双方向的に対話できる人文科学の環境を整えていけたらと考えています。

こんな授業! どんなん? ゼミ?

文=政治経済学部 3年
寺崎 秀悟

日常の中で抱く素朴な疑問を、公共的な「問い」として捉え返していくためのヒントがたくさん含まれています

自由と複数性のある社会を探究する旅へ

公共哲学(政治)

【政治経済学部設置科目】

この世界には複数の多様な意見や価値観、経験が併存しており、それらが深甚な対立を見せる場合も少なくありません。過去や現在の思想家による議論や人々の実践と対話しながら、自由と複数性が擁護される望ましい社会のあり方を「探究」していくのが、「公共哲学(政治)」という科目です。

哲学の授業ですから、抽象的で難解な議論もいくらかは登場します。齋藤純一先生はそうした議論を時事的な話題や身近な具体例も交えなが

ら平易な語彙で解説し、学生からの質問やコメントにも丁寧かつ示唆に富む応答をしてくださいます。理解や共感のできなさも含めて、私たち自身が講義から読み取り、感じ、考えたことを言葉にして表明していく過程によって、本科目はそれ自身が公共的な空間となり、「閉じていない探究」の場となっているのです。



齋藤純一 政治経済学術院教授



私のワセメン

取材・文・撮影=教育学部 3年
渡辺 詩乃一番人気の「RAMEN KURO」
1,000円(税込)

早稲田で世界3位のラーメンを堪能!

「Zweiter Laden」

世界最大の日本食イベント「ニューヨークJAPAN FES」で世界3位に輝いた実力派。「RAMEN KURO」は口に入れた瞬間、今まで食べたことのない、何とも言いえない旨みが広がります。店主の横山さんにしか作れない「摩訶不思議系」ラーメンです。

ぴー ぷる

取材・文・撮影=文学部 4年
加藤 志織

吉納選手(左)と山縣選手(右)。東伏見キャンパスにて

楽天、日ハムからドラフト指名!

東 京六大学野球・秋季リーグ戦を制し、春秋連覇を達成した早稲田大学野球部。吉納翼選手が東北楽天ゴールデンイーグルス、山縣秀選手が北海道日本ハムファイターズへと、2名のプロ入りが決定。「僕たちも『早稲田の看板』をしっかりと背負っていきたい」と語ってくれました。

サークル紹介

さまざまな角度からレゴを楽しみ、発信していく

「早稲田レゴブロック研究会」

文=大学院基幹理工学研究科 修士課程 2年
河原 慶嗣

おもちゃのレゴを余すことなく楽しみ、その魅力を多くの人に伝えるために活動しています。ブロックを組み合わせた芸術作品、玉転がし装置など実際に動かすこともできる作品など、サークル員みんなで協力して大きな作品を制作するので、完成したときは多くの達成感を得ることができます。



サークル員みんなで一年間かけて制作した東京ディズニーリゾートのジオラマ

研究

まっしぐら!

文=大学院人間科学研究科
修士課程 2年
村田 英理奈もし、機械と人間が
共感し合えるように
になったら

私は、機械学習を通じて人間の感性を定量化し、モデル化するという研究に取り組んでいます。もし感性をモデル化することができれば、機械が人間の感性を理解できるきっかけになります。

現在行っている研究は、SNSのXの投稿を読んだ人が、その投稿にどの程度投稿者の承認欲求を感じるかを判別した上で、その結果を機械学習の教師データ(※)として使用し、評価します。これにより、機械は新たな投稿を自動的に分類できるようになり、大量のデータを効率的かつ迅速に処理できるようになります。

2023年9月には、日本学術振興会が主催する日中韓フォーサイト事業に参加し、中国の南京で開催され

た研究成果の発表を行いました。ワークショップでは、多くの研究者との交流を通し、さまざまな分野からのフィードバックや新たなアプローチの着想を得ることができ、とても有意義な時間となりました。

※機械学習のモデルを訓練する際に利用するデータ。入力されたデータに対して、それぞれに対応した正解(ラベル)が付与されている。



日中韓フォーサイト事業での発表

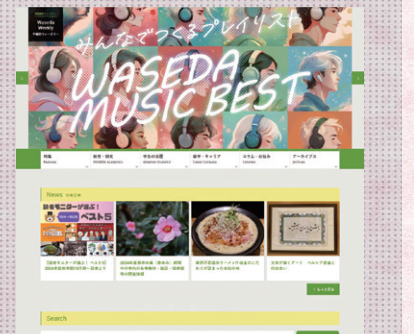
キャンパスライフの情報は、ウェブサイト「早稲田ウィークリー」で随時チェックできます。

早稲田ウィークリー

「早稲田ウィークリー」は、早稲田大学学生部が発行する学生向けウェブマガジンです。授業期間中は毎日更新。学生生活に役立つ情報など多様なコンテンツを提供しています。こちらの誌面に登場したトピックスも、ウェブサイトにてさらに詳しく紹介しています。



※早稲田ウィークリーの記事を編集して掲載しています。また、記事内容は早稲田ウィークリー掲載時のものです。



卒業式、入学式を挙行

式典の様子はインターネットでライブ配信



3月25、26日、戸山キャンパスの早稲田アリーナにて、2024年度学部卒業式、芸術学校卒業式および大学院学位授与式を執り行い、計10,680名が新たな門出を迎えました。来場者の安全確保と地域交通への影響を鑑み、式典への参加は卒業生、修了生のみ限定。保護者の皆さま向けには早稲田キャンパス内に同時中継会場を設けるとともに、ライブ配信を行いました。式典では、総代、博士の学位記授与に続き、田中愛治総長より卒業生へ式辞が送られました。田中総長は、式辞で「皆さんは、早稲田で学んだことに自信を持ち、コロナ・パンデミックの中で苦しい学生生活をやりきったことを

誇りとして、今後の人生を切り開いてください。卒業後も、時々母校に帰ってきてください。その時には、今よりも輝いている早稲田で、今よりも輝いている皆さんとお会いしましょう」と激励しました。

4月1、2日には、早稲田アリーナにて2025年度学部・芸術学校・大学院入学式を執り行いました。2025年4月の学部入学者8,996名が、早稲田の杜での生活をスタートさせ、大学院入学者の2,900名が、さらに学問を追究し、学問の発展に貢献していくことを目指します。田中総長は式辞で「早稲田で思う存分、勉強し、自分のやりたいと思う活動にも力を入れて、充実した学

生生活を送ってください。4年後には、より遅くなって、よりしなやかに輝いている皆さんを、今よりも輝いている早稲田大学が、送り出したいと思います」と激励しました。

卒業式の様子はこちらからご覧いただけます



入学式の様子はこちらからご覧いただけます



地域交流フォーラムを13会場で開催予定

※保護者等の皆さまへの近況報告

主に1都3県(東京・埼玉・千葉・神奈川)以外にお住まいの保護者等の皆さまを対象とした地域交流フォーラムを開催します。本学における取り組みをご紹介しますほか、学生によるトークセッション、保護者等の方々同士での懇談会、職員との個別相談などを実施予定です。企画内容や時間帯などの詳細はウェブサイトにてご案内しております。

※ご参加には事前申し込みが必要となりますのでご注意ください。



2024年度開催時の様子



[2025年度 地域交流フォーラム日程・会場一覧]

地域	日程	会場
沖縄	6月22日(日)	メルキュール沖縄那覇
滋賀	7月6日(日)	びわ湖大津プリンスホテル
三重	7月20日(日)	ブラザ洞津(どうしん)
福岡	7月26日(土)	福岡ガーデンパレス
兵庫	8月24日(日)	神戸三宮東急REIホテル
山梨	8月31日(日)	甲府記念日ホテル
鳥取	9月23日(火・祝)	鳥取ワシントンホテルプラザ
青森	10月5日(日)	ホテル青森
愛知	10月13日(月・祝)	名古屋ガーデンパレス
高知	10月26日(日)	高知プリンスホテル
茨城	11月8日(土)	水戸三の丸ホテル
大阪	11月22日(土)	新大阪ワシントンホテルプラザ
佐賀	11月30日(日)	ホテルマリタール創世 佐賀

動画コンテンツで大学の取り組みをご紹介します

地域交流フォーラムにてご紹介している大学の取り組みなどを動画コンテンツにまとめています。保護者等の皆さまより多く寄せられるご質問をまとめたFAQもご紹介します。右記二次元コードよりご覧ください。



最新のニュースは、
早稲田大学
オフィシャルウェブサイトで!



本ページで紹介したニュースは、早稲田大学オフィシャルウェブサイトでご覧いただけます。



CAMPUS NOWはウェブサイトでもご覧になれます。

読者ウェブアンケート

皆さまのご意見を反映し、よりよい誌面にしていくためにアンケートにご協力ください。申請フォームはこちらの二次元コードよりお願いします。



表紙写真

早稲田キャンパス
中央図書館



早稲田大学図書館の歴史は1882年にさかのぼり、現在の中央図書館は1991年に創立100周年を記念して「安部球場」の地に建てられました。写真は2階の大階段から3、4階部分を見上げた様子です。大階段は2〜4階まで吹き抜けになっており、ここでコンサートを開催することもあります。



NOW ON CAMPUS!

4月号の
気になる撮影スポット



早稲田大学図書館のゾーニングサイン

早稲田大学図書館では、閲覧席やグループ学習のできるモモンズなど、用途別に空間を分けるゾーニングをしており、館内各所にあるピクトグラムのサインによって、会話やパソコン等の機器の利用など、そのエリアで可能なこと、禁止されていることが、利用者に一目で分かるようになっています。なかでも中央図書館は、静かさを段階に応じて「Active」「Quiet」「Silent」「Super Silent」と4つのエリアが設定され、フロアガイドに色別に表示されています。

WASEDA VISION 150

大隈重信が宣言した早稲田大学教旨を受け継ぎ、
本学は、創立150周年を迎える2032年の本学のあるべき姿を思い描き、
2012年に中長期計画“WASEDA VISION 150”を策定しました。
2018年以降、これをさらに進化させるべく新たなスローガンとして
「世界で輝くWASEDA」を掲げ、施策の検証と改善を繰り返しながら、不断の改革を実行しています。
詳細は下記ウェブサイトをご覧ください。
<https://www.waseda.jp/inst/vision150/>



WASEDA University
早稲田大学